

## 短編舞台『ワルツ』研究結果 『ワルツ』研究報告と今後のLABOについて

### 【研究結果】

---

常に緊張感のある、作業量の多い大変な研究でした。

15分の舞台で出演もしないし、今までの研究発表に比べたら、労力は半分だろうとふんでいたのですが、とんでもない勘違いでした。パズルの1ピースのような短い言葉たち、2つという少ない体、1つだけの置物、シンプルな要素で、広い空間の絵、動的なものをどう心地よく流していくかに非常に苦心しました。

細かい手探りの苦しい創作でしたが、植田さん木原さん宮本さんが、その能力を惜しみなく使い真摯に向き合ってくれたこと、稽古の積み重ねを信じ律して居てくれたことで、この作品が私にとって特別で、大切な、大好きな作品となりました。毎日祈るように稽古をして、なんとか味わいたい感覚が現れた喜び。客席で見るその現れたものに私は、知ってたのにずっと会えなかった何かにやっと会えたような気持ちになりました。簡単に言えば、何故かめちゃくちゃに癒やされていることに驚きました。

今回の創作で得たことは、何一つ本番中に手出しができない演出という立場から得たことです。自分を人に預ける、ということの勇氣、つまり信じるために己が己を手放せるかどうかということでした。神経質で臆病者の私にとって、手放すことには耐え難い恐怖がありましたが、『ワルツ』の三人が「それは心地よいことだよ」とその誠実さをもって教えてくれたように思います。自分に気づきを与えてくれる、全力を出してくれる人々に囲まれた環境にいたことを改めて幸せに思います。

可愛い愉快的『ワルツ』の面々、大らかで優しいスタッフ様方、そして、この貴重な機会を与えてくださった主催・Mrs.fictions様に、心からの感謝を。

## 【今後の研究】

---

とにかく早く稽古がしたいです。

書きたいこと、見たいことが、沢山沢山あります。

プロットが、6個くらいあります。「このプロットはこの人でこの劇場で」と  
いっちょまえにイメージだけが止まらない状況です。

お金も機会もないペーペーの私が最も早く実現できそうなプロットから詰めていきたいと  
思います。オファーしたい方は知り合いでもなんでもない人たちばかりです。

私はその人ありきで書いてるので

断られたら終わりなので断りづらい状況に持っていけるよう、

まずは、魂を鍛え上げて参りたいと思います。

『美食家』はおシャンソンをテーマに、怪しいミディアムチューンでした。

『ワルツ』はワルツをテーマに、ポエジーバラードでした。

次はファンクをテーマに、ボタニカルアッパーチューンをお届けする予定です。

変わったらごめーんね！お楽しみに！

あと、色んなお誘い待ってま〜〜〜す！作る機会、くださ〜〜い！

さて、そろそろ小便をしに参ります。

---

以上を報告とさせていただきます。

お付き合いありがとうございました。

今後もZURULABOをよろしくお願いいたします。

**ZURULABO 所長・小野寺ずる**

